

# 代々木図書館新聞

よよぎとしょかんしんぶん

渋谷区立代々木図書館 03-3370-7566

〒151-0053 渋谷区代々木 3-51-8 代々木区民施設 4F

Vol. 32  
2015年10月15日

## 大正〜昭和の魚屋 代々木の街を 一心太助が走る

大正〜昭和の魚屋



『守貞謄稿』  
喜田川季荘著  
国立国会図書館  
デジタルコレクションより  
「江戸初鯉売」



今も代々木を見守る  
魚宗（うおそう）の看板

来年十一月、東京都中央卸売市場が築地から豊洲に移転することになりました。  
大正十二年の関東大震災で、それまでの日本橋魚河岸が壊滅。築地では、昭和十年から正式に営業を開始しました。

### ●代々木の魚屋

今や世界最大の規模となった築地魚河岸ですが、その始まりの頃、小売りの魚屋のようすはどんなだったのでしょうか。

『渋谷むかし口語り』に「代々木の魚屋こぼれ話」という塩田清さんの談話が載っています。大正末から昭和にかけての思い出です。これを頼りに見ていきましょう。

### ●「仕入れは大八車」

自動車は、庶民の生活にはまだまだ無縁のころ。仕入れには車輪も木でできている重い大八車を引いて、毎朝築地まで行く歩かなくなった平成の民から見

ると、大変な重労働です。とは言い、血気盛んな若い衆が四、五人いて行きは空車。少しでも良い魚を仕入れたくて、気も急いでいる。まだ暗い街並みを、ガラガラと音を立てながら走っていたかも知れません。

### ●「赤坂あたりが大変」

一方、帰りは荷が重い。しかも、「築地から生かしてきて、生け簀に放して」いたと書かれているので、海水も運んでいたはず。入れものは樽でしょうか。ますます重い！

そして、最大の難所は赤坂。この辺りは坂が急なので、車夫も雇って押し上げてもらいます。大八車は二輪しかないのですが、バランスを取るのも難しい。舗装のない道を運ぶのは、難儀であったでしょう。

### ●「一心太助のスタイル」

さて、帰り着くと、早速売りに出かれます。一心太助は江戸時代の人物とされていますが、天秤棒をかつぐ、棒手振りとも言うスタイルは変わりません。身なりは、地下足袋に袴纏・股引姿です。

近所に大きなお屋敷が多かったため、この店では高級鮮魚のみを扱ったとのこと。上物師と呼ぶようです。

当時鮪は高級魚とされなかったもので、扱うのは鯛・鯖・平目や鰯などの白身魚。ご用聞き中心で、残りを店で売りました。お得意様が軽井沢へ避暑に行くときには、お供をして魚の世話をすることもあったとか。

### ●時代は変われども

近隣の魚屋がトラックに乗り合わせて買い出しに行くようになったのが、昭和十三年ごろ。店に冷蔵陳列ケースを置くようになったのが戦後になってから。運搬方法と保冷技術は進歩し、魚屋のスタイルを変えて行きます。

時代は移り、塩田さんの店は商売替えをしました。けれども、創業時に掲げた看板は、今も代々木の街を見守っています。



左から『築地魚河岸』田沼武能ほか著 新潮社／『築地のしきたり』小林充著日本放送出版協会／『渋谷むかし口語り』野村敬子編渋谷区教育委員会



『ぜんぶわかる! アサガオ』  
渡邊弘晴著 ポプラ社

青い花が  
ピンクに変わる  
朝顔の秘密が  
わかります!

7月15日、代々木山谷小学校一年生の「おはなすきすきふらわあたい。」の皆さんが、朝顔の鉢を持ってきてくれました。生活科の授業で、地域に朝顔の鉢を持って行って貰う「お花いっぱいプロジェクト」に取り組んでいるのだそうです。

### 「おはなすきすきふらわあたい。」からお預かりした朝顔が咲きました



こんなにたくさん咲きました!

図書館は直射日光が入らないうえに冷房が効いているので、うまく育つか心配されましたが、8月にはいつてたくさん花を咲かせるようになりました。花は青でしたが、夕方気づくといつの間にかピンクになっています。青い花は時間がたつとピンクになるのですが、普通はその頃には萎れているので気づかれないことが多いようです。涼しい部屋の中では遅くまで咲いているので観察することができたのですね。夏を彩る朝顔の花。次々に咲いて図書館を訪れた人の目を楽しませてくれました。

### 渋谷と文学

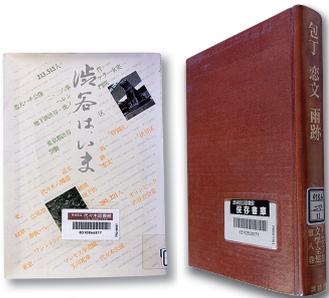
#### 「恋文」 『丹羽文雄文学全集第八巻』所収

#### 丹羽文雄

戦後渋谷に恋文横丁という名の通りがありました。英文が書けない日本女性のために、恋文を代筆する店があったのでその名がついたのです。店は、今のSHIBUYA109のあたりにあったようですが、昭和40年に火災のため消失してしまいました。

小説『恋文』は、この代筆屋が主人公です。時代は朝鮮戦争。店には大勢の女性が、駐留地の日本から戦地や本国にもどってしまったアメリカ兵の心をつなぎ止めるための恋文を書いてもらいにやっています。そして主人公も、戦後行方がわからなくなった女性を探し続けていたのので、代筆した恋文は自分の気持ちを綴ったものでもありました。しかし、その女性が店に客としてあらわれてから、彼の心は大きく揺れ動きます。

当時の街や店の様子は『渋谷は、いま』で詳しく知ることが出来ます。



左:『渋谷は、いま』  
渋谷区企画室広報係編 渋谷区  
右:『丹羽文雄文学全集第八巻』  
丹羽文雄著 講談社

### 図書館ご利用案内

#### 開館時間

月・水～金曜日→11:00～19:00  
土日祝休日→9:00～17:00

#### 2015年10月～1月の休館日

毎週火曜日・第3日曜日  
11/12(木)・12/10(木)・1/14(木)は館内整理日のため、また、12/29(火)～2016年1/3(日)は年末年始のため休館します。

### 2015年10月～1月の催し

#### おはなし会

開催日 毎週木曜日(第2木曜日を除く)  
時間 15時～15時30分

#### おはなしとこうさく会

開催日 第3土曜日  
時間 15時～15時30分  
●12月はクリスマス会、1月はこどもカルタ会です

#### 雑誌リサイクル

開催日 第4土曜日 時間 9時～

### お知らせ

- 2016年1月11日(月)成人の日 11:00～12:00 「大人のためのおはなし会」を開催いたします。内容は落語など。入場無料、申込不要です。
- 次回は、2016年1月発行の予定です。

### 編集後記

大八車に重い箱を積み上げて、築地から大汗流し運んで来る魚。今に比べれば選べる種類も圧倒的に少なく、夏場は鮮度も心配であつたらう。けれども、若い衆の掛け声、ガラガラ響く車輪の音。売り歩く声。住宅地として開けつつある、渋谷の活気。それらすべてを味わって、魚はさぞやおいしかったことでしょう。

ご紹介した本は、すべて渋谷区立図書館で借りられます。